

教職員自主的研究推進事業 実績報告書

研究グループ名【但馬リンク研究会】

代表者の所属・職・氏名	兵庫県立和田山特別支援学校	連絡先	住所	朝来市和田山町竹田 1987-1
			TEL	079-674-0214
	FAX		079-674-0279	
	e-mail アドレス		s944614@hyogo-c.ed.jp	
	主幹教諭 古屋光晴			

活動実績

研究テーマ

特別支援教育コーディネーターの専門性の向上と育成を目的とした研修の在り方
～自分たちで特別支援教育コーディネーターを育成するために～

【研究の概要】

1 研究に係る活動

表1のような活動を行った。表中のCoは特別支援教育コーディネーターを表す。

表1 年間活動一覧

No.	月日	場所	概要
1	平成28年6月2日	県立豊岡聴覚特別支援学校	Coの専門性とCo育成の研修の在り方についての調査・検討
2	平成28年7月7日	県立出石特別支援学校みかた校	兵庫教育大学特別支援教育モデル研究開発室との連携について
3	平成28年7月21日	県立出石特別支援学校	Co研修会の開催に向けて 質問紙調査に係る項目の検討 対談の内容検討 ワールド・カフェの実施方法 コンサルテーションとは
4	平成28年8月30日	養父市立養父公民館	Co研修会の開催 対談「通常の学級における授業コンサルテーションについて」 兵庫教育大学教授 宇野宏幸氏 × 県立出石特別支援学校教諭 南田義明氏 ワールド・カフェ「子どものニーズと通常の学級の授業づくり・学級経営」
5	平成28年9月2日	県立和田山特別支援学校	Co研修会の反省 Co研修会のアンケート調査結果
6	平成28年10月6日	県立豊岡聴覚特別支援学校	Coの専門性とCo研修会の在り方の検討 文献による調査
7	平成28年12月1日	県立豊岡聴覚特別支援学校	Coの専門性とCo研修会の在り方の検討 文献による調査
8	平成29年1月5日	県立出石特別支援学校	文献による調査 研究活動のまとめに向けて
9	平成29年2月2日	県立和田山特別支援学校	研究活動のまとめの報告 今後の研究活動についての協議

2 研修会の開催

- (1) 実施日 平成 28 年 8 月 30 日
- (2) 場 所 養父市立養父公民館
- (3) 参加者 但馬地区の特別支援学校教員 19 名、同地区の小学校教員 8 名、中学校教員 1 名、市教育委員会指導主事 1 名、大学院生 3 名で、参加者の教職員経験年数は、平均すると 19 年であった。Co だけではなく、通級による指導担当者や通常の学級の担任も参加をした。
- (4) 内 容 ○対談「通常の学級における授業コンサルテリングについて」
兵教教育大学 教授 宇野宏幸氏
県立出石特別支援学校みかた校 教諭 南田義明氏
○ワールド・カフェ「子どものニーズと通常の学級の授業づくり・学級経営」

3 成果と課題

特別支援教育に関する機関が少ない但馬地区においては、小・中学校等の教員や保護者から Co に寄せられる期待感が高く、その役割も大きくなってきている。担当者は、Co の育成に対して課題意識を持ってはいるものの、十分な取組として実施されている状況ではなかった。本研究は、但馬地区における Co 育成に向けた取組の一步となった。当初は、本研究会のみで研究を進めようと考えていたが、Co の役割や専門性を明らかにしていく中で、専門家の知見を得る必要性を感じ、兵庫教育大学教授の宇野宏幸氏に助言をいただきながら研究を行った。

Co の活動は、通常の学級や諸機関の関係者と関わることが多い。そのため、研修会の参加者にも多様性を持たせることとした。それぞれが所属する組織の文化に基づいた発言がなされるため、語彙が包含するイメージが異なることもある。参加者は、その違いを乗り越えて、合意の形成を図る必要がある。この多様性こそが、課題解決に向かうプロセスを作り出したとも言える。

本研究会のメンバーで研修の在り方について、話し合いを重ねた結果、参加者の満足度が高い研修会が実施することができた。本研究会のメンバーにとっても、コミュニケーションによる学びが促され、宇野宏幸氏をコンサルタントとして、本研究会のメンバー自ら課題解決に向かうことができたと考ええる。

今回は、「喫茶ちこ・暗闇のちこ」を活用しての研修会の実施であったが、他の研修パッケージについても検討するとともに、但馬地区の特別支援教育の充実のために、今後も研究に取り組んでいきたい。

本研究の詳細は、添付書類「特別支援教育コーディネーターの専門性の向上と育成を目的とした研修の在り方～自分たちで特別支援教育コーディネーターを育成するために～」をご覧ください。